

歌うねずみウルフ

ディック・キング＝スミス／作 杉田 比呂美／絵 三原 泉／訳 借成社

ウルフは、13びき兄弟のすえっ子で、ウルフガング・ア・マウス・モーツァルトという名前のちびねずみです。ウルフたちは、ピアノがじょうずなハニービーさんの家に住んでいました。ある日、ハニービーさんは、ウルフのきれいな歌声を聞き、自分のひくピアノに合わせて歌ってほしいと思うようになりました。



ぺちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン／文 トミー・ウングレー／絵 さくま ゆみこ／訳 あすなる書房

ベッドでねていたスタンレーは、ぶ厚い大きな板につぶされ、体の厚さが1.3cmになってしまいました。お医者さんもしたらもともどるかわかりません。ぺちゃんこになったことで、便利なおことがあったり、どろぼうをつかまえたりと大かつやく。でも、スタンレーは、ぶつうの姿にもどりたくてなみだを流します。



スーホの白い馬 (モンゴル民話)

大塚 勇三／再話 赤羽 末吉／画 福音館書店

まずしいひつじかいのスーホは、白い子馬を拾いました。スーホが心をこめて世話したので、子馬はりっぱに育ちました。スーホが、その馬に乗り、けいば大会に出ると、1等になりました。ところが、この様は家来にスーホをうちのめすように命じ、白馬も取り上げてしまいました。



スズメのくらし

平野 伸明／文・写真 福音館書店

スズメは身近な鳥ですが、どんなくらしをしているかあまり知られていません。スズメをおそう敵がたくさんいるので、用心深いからです。敵にねらわれないために、人家の屋根などのすき間や、タカの巣のかけに巣を作ります。ぶつうの鳥とちがい、年に何回も子育てをしたり、きれいなすきなど、スズメのひみつをたくさんの写真で知ることができます。



夏休みに 読んでみよう!

2024年 3・4年生用



くしゃみ くしゃみ 天のめぐみ

松岡 享子／作 寺島 龍一／画 福音館書店

はくしょんという名前のわか者が、お母さんの大きなくしゃみで遠くに飛ばしてもらいました。落ちたところは、長者の家。長者のむすめは耳が聞こえず、話すこともできません。けれども、はくしょんがくしゃみをたて続けにするようすを見て、はじめて声をたててわらいました。ほかに、しゃっくりやいびき、あくびなどのおもしろい話があります。



ものぐさトミー

バーン・デュボア／文・絵 松岡 享子／訳 岩波書店

トミー・ナマケンポは、電気じかけの家に住んでいます。朝、日がのぼるとベッドは自動的に動き出します。おふろに入ったり、歯をみがくのも、かみの毛をとかすのも、服を着て、ごはんを食べるのも、すべて機械がやってくれます。ところが、あらしで停電になり、7日ぶりに電気がくると大変なことになります。



百まいのドレス

エレナー・エスティス／作 ルイス・スロポドキン／絵 石井 桃子／訳 岩波書店

毎日、色のはげた青いワンピースを着ているワンダが、「ドレスを100まい持っている」と言い出します。それからというもの、同じ教室のペギーたちは、いつもワンダをからかいました。ペギーの親友デラインは、からかうのをいやだと思いつつも、やめようとは言えませんでした。そして、ワンダは、とつぜん大きな町へ引っ越ししてしまいました。



のんきなりゅう

ケネス・グラム／作 インガ・ムア／絵 中川 千尋／訳 徳間書店

むかし、とてつもなくなまけ者で詩を作ったのんびりくらししているりゅうがいました。りゅうは、読書好きな男の子と友だちになりましたが、おそろしいりゅうがいると村は大きなきになり、やがてりゅう退治の騎士がやってきました。男の子はりゅうを助けようと騎士に会いに行きます。

